

# EM家庭菜園講座

VOL.11



## EM肥料の追肥は“微生物を育てる”ため！

家庭菜園をする上で必要な知識は主に、土づくり・栽培管理・収穫ですが、今回は栽培管理時に必要な「追肥（肥料をあげること）」についてご紹介します。

### 微生物を育てる追肥って？

作物を栽培する際は「肥料」を使います。一般的に、「肥料」を作物に与える（追肥する）場合、作物の生長具合を見て判断します。「葉の緑色が濃くなりすぎると窒素過多」「花が咲き、実をつける時に栄養が必要」などと言われ、“いつ・何を・どのくらい”与えればいいのか、初心者には難しいことも。化学肥料は植物が直接栄養を吸い上げる形になってます。微生物は化学肥料をエサとして使用することができず、栄養分や微量ミネラルを分解・合成してくれる微生物たちは育ちません。

EM栽培の根底にある考えは“微生物を育てる”こと。土の中にEM由来のいい微生物がたくさん増えると、植物の生長に必要な栄養分を分解・合成し、吸収しやすい状態に整えてくれます。いい微生物を増やすためには、いいエサを与えることが必要です。EM栽培をする際には、「肥料は植物のため」という発想から、「肥料は微生物のエサ」という発想の転換が必要！EM処理した良質な肥料を与え、いい微生物を増やしましょう。

### 微生物にはいつエサが必要？

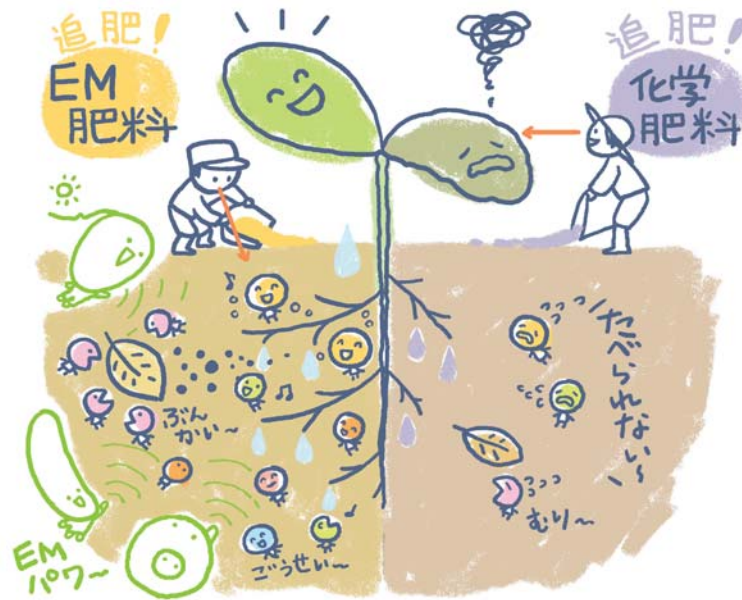
微生物は数十分～数時間に1回のペースで分裂を繰り返し、土の中で増えていきます。微生物には常にエサが必要です。つまり、“いつ肥料（エサ）をまいてもいい”のです。

#### ポイント①

いつ肥料をまいてもいいですが、土の中の微生物の量と肥料（エサ）の量のバランスが、いい微生物環境づくりを左右します。肥料をまいたら、EM活性液もどンドン撒いて、土の中にいい微生物を増やしましょう！

#### ポイント②

いい微生物環境づくりには、良質なEM資材を使うこと！良質なEM活性液とEM肥料をつくりましょう。



EM肥料は微生物を育てる

## EM肥料の種類いろいろ

EM肥料には色々な種類があります。EMで一度きちんと発酵させてから肥料として使うことが基本！「肥料まで自分で作れない」という方は、EMと相性抜群の液肥も販売されています。ライフスタイルや用途に合わせて肥料を活用しましょう。

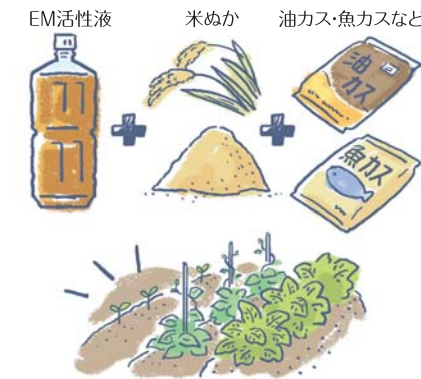
#### EMボカシⅠ型

米ぬかをEMで発酵させたもの。主に、生ごみ処理用に使われます。



#### EMボカシⅡ型

米ぬかに魚カスや油カスなどをまぜて発酵させたもの。Ⅰ型ボカシに比べてアミノ酸などの栄養分が多いため、家庭菜園や農家などでよく使われます。



#### EM生ごみ発酵肥料

家庭で出る生ごみを、EMボカシⅠ型とEMセラミックスで発酵させたもの。家庭の中で資源循環をすることができます。



#### 有機堆肥（鶏糞など）

市販の有機肥料もEM化してから使うことができます。

買ってきた有機肥料（10kg）の袋に小さな穴をあけ、ジョウロなどでEM活性液を薄めずに1リットル程度入れます。穴をビニールテープなどでふさぎ、約1ヶ月おいておきましょう。EMが勝手に移動していくので、袋をふって混ぜなくても大丈夫です。



※EM活性液の量は目安です。全体がしっとりするくらい入れましょう。水分が過剰になると、腐敗の原因になるのでご注意ください。

#### 収穫残さや青草

ラインマルチ（本誌8号参照）や土づくり（前号参照）で活用しきれなかった収穫残さや青草は、一ヶ所に溜めておき、EM活性液をかけておくと、肥料として活用することができます。米ぬかなどをたまに撒くことで、EMの働きが活発になります。



比嘉先生の農園「青空宮殿」の落ち葉置き場

#### 液肥ぐりんぐらぶ（市販品）

サトウキビやトウモロコシなど植物由来原料を100%使用。植物に直接吸収されやすい各種アミノ酸をバランスよく含んでいます。EMとの相性も抜群！花や野菜の生長を促進する、安全安心の液肥。

500ml 1,000円（税込）

